

科目分類	医療のコラボレーション教育			開講学科	全学科
科目番号	学年	配当セメスター	区分	単位数	授業時間数
18044	1	前期	必修	1	15
授業科目名 (英文)	ボランティア論 (Volunteer Outline)				
担当教員名	齋藤 信夫				
授業の概要及び到達目標					
<p>1995年の阪神淡路大震災では「ボランティア元年」と言われ、ボランティアに関する制度や多様な取り組みが始まりました。2011年の東日本大震災以降、ボランティア活動に対する関心はますます高くなり、多様な人々がボランティア活動に参加する機会を得ようになり、「21世紀はボランティアの時代」といわれています。</p> <p>概 要 現代の日本においてボランティアはどのような意義があるのかをとらえ直し、共生社会や医療保健の推進におけるボランティアの諸相、活動の実態、意義、課題などについて多角的に考察し、ボランティアに対する理解を深め、その多様性を知る契機とします。</p> <p>ボランティアの背景、現状、課題など「ボランティアを学ぶ」と同時に多様な事例によって「ボランティアで学ぶ」ボランティア論として、市民社会の担い手としてのボランティアを理解し、ボランティアにより共に自己実現を図ることを理解し行動につなげたい。</p> <p>到達目標 新しい公共の実現に向けて、さまざまな社会的課題解決に取り組むボランティアについて解説し、市民社会や医療保健の推進にとって不可欠な、現代社会におけるボランティアについての理解を深め、社会化し自立した医療者としての社会観を養い、コミュニケーションとホスピタリティを豊かにすることを目標とします。</p> <p>未来への確かな希望を持って生きる力、自助/公助に次ぐ第三の助け合い共助をともに学びあいます。</p>					

準備学習等

双方向の授業をするので、常に真摯な態度で臨むこと。

ファストフードのマクドナルドをご存知ですよね。マックは長期入院児童の家族の支援活動をボランティアとともに展開しています。

ボランティア活動は日々の暮らしと深くかかわっているのです。生活の中で、通学途中で「あれ?!」ということをお大切にもらいたい。たとえば駅や交差点などにある点字ブロックは何のためにあるのか、それが本当に役立っているのだろうか。そんな社会的事象に疑問や不思議や関心を持ち、一緒に授業を作っていくために私たちが暮らす社会や世界に関心を向けること。毎日の新聞や町内会の掲示板など身の回りの情報や出来事に関心を持つことが社会を身近に感じる第一歩になります。

毎回のリアクションペーパーでは考えをまとめて書くことが求められています。自分と社会のかかわりに気づき、自分の生き方を省みて積極的に物事に取り組む態度を身につけてほしい。

授業の後は、「ボランティア」というキーワードの意味を自分自身の生活・経験に照らして感じ考え整理することが大切です。毎回、自分で授業ノートをまとめ、社会事象と照らし合わせ、現代社会や課題解決にとってのボランティアの意義を考察してください。

ボランティア活動の経験の有無に関わりなく、自分の将来や生き方に活かそうという意志があれば学習成果は大きくなります。

成績評価の方法	レポート評価 40% 毎回のリアクションペーパーの内容を評価 試験 60% 理解度の確認とボランティアについての考察を評価
テキスト	なし 授業概要については資料としてプリントを配布します
参考図書	なし 日々の新聞やニュースに関心を持つこと
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学生へのメッセージ 本講は座学なので、選択科目「ボランティア活動」を履修し実体験することが望まれる。 ・ 授業時に実施するレポートは、添削後返却します、振り返り学修に活用する等よく復習してください。試験についても同様です。 ・ オフィスアワーについて 質問などがあればリアクションペーパーに記入してください、ペーパーで返すか、授業で取り上げます。 ・ 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連については、別途明示している各学科の履修系統図をご確認ください。

授 業 計 画

「ボランティアは究極の娯楽」「ボランティアが動く、社会が変わる」という考えがあります、何故なのか一緒に考えていきましょう。
できるだけ一方通行の授業ではなく、講義、ワークショップ、討論、ビデオ視聴など多様な手法をもちい、皆さんとやり取りをしながら進める参加型授業を目指します。

第1回:科目説明、授業のルール、レポートと試験について

ボランティア活動のイメージをワークショップで探る

視聴覚教材「高校生のボランティア活動」でボランティアの世界を知る

第2回:ボランタリズムの理念とサービスラーニング

奉仕活動とボランティアを考えます

視聴覚教材「住民が病院を支える」で住民参加のボランティアの可能性を探る

第3回:ボランティア活動の現状と課題

ワークショップによってボランティアについて多面的に考えあいます

視聴覚教材「骨髄バンク」で医療とボランティアの現状を考える

第4回:ボランティア情報の検索とコンタクト インターネットを使って<パソコン持参>

※選択で「ボランティア活動」をとる人は活動体験先を探しましょう

第5回:新しい公共を創り出すボランティア NPO・NGO の概念と現状

特定非営利活動促進法(NPO 法)はなぜ生まれたのか

第6回:各国のボランティア事情

ボランティアに対する政策や取組みの違いについて

第7回:災害とボランティア 視聴覚教材「泥まみれの34日」

被災者とボランティアの関係 学生が立ちあげた災害ボランティア団体

第8回:生き方としてのボランタリズム

社会的な出来事を随時授業に取り込むので視聴覚教材の活用を変更することがあります